

仙林寺だより

NO. 47
編集・発行
松田正貴

行事報告

保小六年生禅の学習・坐禅体験

六月二十四日、五月の史跡学習に続き、六年生の体験学習、今回は坐禅メインで、時間も一時間半とたっぷり、人数も約一クラス分の二十八名とじっくり指導できる要素が揃い踏み。「保小生皆坐禅体験」を目論む私にとつて願ったり叶ったり。

平安・鎌倉仏教の流れを導入部に軽いジャブ、時間に余裕があった事で、坐禅の効用以前に、身体が及ぼす心との関係を、声を出したり、横になつてみたりと、関係性を体感する時間を持てました。その後坐禅を体験し、五分ほどの法話も盛り込みました。

最後に丁度十五歳少年の両親殺傷事件が報道されている時期でもあり、話題の絵本「いのちのまつり」を元に「命がなぜ大切なのか」のお話で締めくくりのご挨拶代わり。あつという間の一時間半でした。

引率の渡部先生、前回に引き続き本当にご苦労様でした。

岩手県曹洞宗第八教区護持会来山

七月四日、岩手県より住職様方六名、またそれぞれの檀信徒総勢五十名の拝登を頂きました。もとよりお見せできる物など何も無いのですが、「本来の仏教・お寺のあり方は如何に」長年の私の課題でもあります。模索は現在進行形、今の仙林寺の有り様があるがま

まに見て頂くしかありません。

地域との連携や、様々な機関との係わり合いを含め、現在の活動状況をお知らせ致しました。同じ曹洞宗でも地域性や習慣により、檀家様との関係や、宗教観も異なるかと思いますが、一つの事例として話し合いのステップに載せていただければ幸いです。

約一時間の諸堂の拝観を終え、次の目的地白河へと向かわれました。

住職様のお一人から、楽しみを持ったお寺運営に共感の声を頂いた事が、何よりの心の置き土産になりました。感謝申し上げます。

保原町公民館少年教室

九日、保原町中央公民館主催「少年教室」が開催されました。

「仙林寺お寺で出来る事」事業の一環、快くお受けしました。

メンバーは、一年生から六年生までと幅があり、低学年の子には、坐禅の時間十五分は長すぎるかとの不安などなんのその、案ずるより生むが易し、ドラエモン法話までしっかりと聞いてくれました。

坐禅の後はお話おばさんの登場で、一気に和やかな雰囲気、緩急にとんだ良い企画でした。担当者の佐藤淳さんは、私の同級生。お互いに子供たちの育成を気にかける歳になったようです。



岩手八教区護持会



少年教室

いのちのまつり

「袖振り合うも他生の縁」、一本の木が立っていた。たまたまそこを通りかかった人がちよつと休もうとした。別の人が、たまたま同じくそこで休もうとした。我々人間の目では、あくまで偶然の出会いに過ぎないのですが、一本の木という縁が招きよせた必然とも言えないでしょうか。

「不殺生戒」植物や虫であつても無駄な死を戒める教えです。ましてや親や子、兄弟等は想定外の話でしょう。ところがこの手の事件が後を断ちません。先の言葉の「他生の縁」とは、「多生の縁」でもあります。

草場一壽氏作「又チ又グスージ」では、この多生の縁をご先祖様という言葉で表します。「又チ又グスージ」は沖繩の方言で「いのちのお祝い・いのちの祭り」という意味です。舞台は沖繩のお墓参り、島独特の大きなお墓に親戚一族が集まります。ご先祖様と食事を共にしながら、悠久の時の流れを感じ、遙かに繋がるご先祖、いのちへの感謝を表します。

絵本には、両親・祖父母・曾祖父母・・・。広大無辺ないのちの繋がりが、広がりを、無数の異なる顔を描く事で表現します。

ここで、そのいのちの広がりを数字で見えます。十代で二千人、二十代迎れば二百万人、三十五代で六八七億人、地球の人口六十億人のなんと十倍のご先祖様がいる事になります。決して「他生」ではないことが見えてくるではありませんか。

草場さんは伝えます。自分自身が奇跡の存在である事、与えられた生命を光り輝きながら共に生き抜くことが「いのちのまつり」であることを。